

## ○低コスト林業の推進に向けた現地検討会

9月17日（水）（独）森林総合研究所森林農地整備センター東北北海道整備局主催、三八・上北流域林業活性化センター及び下北流域森林林業活性化センター共催、当森林管理署後援による「森林作業道現地検討会～丈夫で簡易な森林作業道開設（のり留工法）について～」が、十和田市を会場に112名の参加により開催されました。

例年活性化センターと共催により開催する現地検討会ですが、今年度は、下北署と合同開催を検討する中で、東北北海道整備局主催の本検討会が十和田市で開催されることから、各団体と協議を行い「水源林事務所での路網整備」について、今後の事業の参考といたく協議し実現したものです。

当日は、十和田市「沢田悠学館」で「丈夫で簡易な森林作業道開設（のり留工法）について」をテーマに森林農地整備センター東北北海道整備局森川基盤整備係長を講師による水源林整備事業で作設している「丸太組工の状況」及び「のり留工による森林作業道の作設」について講義、十和田市法量相ノ窪造林地に会場を移して、丸太によるのり留工を事業者である上北森林組合が実演、意見交換を行いました。

作業現地は、林道から約1000m程度入った51年生のスギ・カラマツ造林地71.31haの事業個所となっており、林地傾斜も緩斜地から中斜地と比較的作業し易い箇所であった。

のり留工の作設は、造林者の上北森林組合作業者が手作業による均し、丸太の設置を実演し、「初めは作業にかなり手間取ったが、今は作業にも慣れて1日約20mは作設できるようになった。」との話もありました。

今回の森林作業道を取入れることは、搬出距離の短縮、継続して使用する事により林業専用道より安価で丈夫なトラック作業道が作設でき、予算の軽減、コストの削減に繋がることから、今後の事業を検討するにあたり大変参考になりました。

初めて100人を超える検討会の開催は、会場の確保、会場等による人数調整等、反省点を含め、今後の検討会開催あたり参考としながら、生産性向上、森林林業の再生に向け地域林業に貢献できるよう取組を進めて行きます。

ご多忙のところ、ご参加いただきました関係者の皆さま、大変ありがとうございました。



のり留工法を講義する森川基盤整備係長



相ノ窪造林地での現地検討会の様子



相ノ窪造林地作設地の状況



上北森林組合による実演の状況